



難治性の白血病とリンパ腫を対象とした CAR-T細胞療法をスタート！

— 千葉県で提供可能な施設に認定 —

千葉大学医学部附属病院（千葉市中央区：病院長 横手幸太郎）は、再発または難治性の白血病とリンパ腫に対する遺伝子改変技術を利用したがん免疫療法である「CAR-T細胞療法」の提供可能施設として、2021年6月23日に認定されました。

当院では、今後も患者さんの側に立った良質かつ適切な医療の提供に努め、より一層地域医療に貢献し、皆様の信頼に応えていきたいと思っております。

■ CAR-T細胞療法とは

患者さんの血液から免疫細胞の1つであるT細胞を採取し、これに遺伝子改変操作を行いCAR（キメラ抗原受容体）と呼ばれる特殊なタンパク質を発現するCAR-T細胞を作製し、患者さんに投与することで、患者さん自身の免疫システムを利用して、血液がん細胞を攻撃する革新的な治療法です。

CAR-T細胞は患者さんの体内で、急性リンパ性白血病や悪性リンパ腫の患者さんのがん表面にある「CD19」と呼ばれる抗原（目じるし）を認識し、がん細胞を攻撃します。

■ 対象となる患者さん

- ・再発・難治性のCD19陽性B細胞性急性リンパ芽球性白血病（25歳以下）
- ・再発・難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫

■ 堺田恵美子 造血細胞移植センター長のコメント



最先端の治療法であるCAR-T治療を行うことができる施設として、当院が認定されました。この治療法は、投与前の準備段階から、投与後の合併症の管理まで、とても質の高い医療体制が求められる治療法です。当院の造血細胞移植センターチーム・CAR-Tプロジェクトチーム一同、一丸となって、この新たな治療法を必要とする方に提供できる様、尽力致します。

<取材のお申込み・お問い合わせ先>

千葉大学病院 病院広報室

Tel : 043-226-2225 Fax : 043-224-3830 E-mail : byoin-koho@chiba-u.jp